
心のかけら

奈月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心のかけら

【Nコード】

N9507Z

【作者名】

奈月

【あらすじ】

昔ノートに書いたものやふと思ったことを書いてみました。

花

アスファルトから出た
あの白くて小さな花のように
あなたは強く生きたいと言った
柔らかな土の上でなく
固いアスファルトの上は
どんなに一人でさびしいだろう
けれどあなたはその場所がいいと言った
誰にも気づかれないかもしれない
雨風に負けてしまいかもしれない
けれどあなたはその場所がいいと言った
同じ白い花の中で
比べられ 埋もれて
ひっそりと消えていく
幾億の花と
同じように生きたくない
暖かな風の吹く昼下がり
あなたは笑う
わたしもそんな風に生きられるだろうか
たった一人で立ち向かう
あの白くて小さな花のように

鏡と光り

「鏡」

あなたのことが知りたくて
そつと手を伸ばしてみた
ひんやりとした冷たさに
孤独のかげが見えたけど
あなたも同じ気持ちでしょうか

窓から差し込む夕陽が
溢れ出す思いを
ほんの一瞬だけ
輝かしてくれたのなら
わたしも素直になれたでしょうか

二人の後ろに
果てしない空が見える

「光り」

夜の闇にのみこまれそうになる
それでもいいと だれかがいう
光りなんていらないと 見栄を張って

夜の次は朝 朝の次は夜
繰り返す毎日が 私たちを導いていく
いつかは あの光りの中へ

素直になれたなら

夜の闇にのみこまれそうになる
私たちは一心に帆を張り
東へと船を進める

きつとそれはやってくる
希望という名の 光りとともに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9507z/>

心のかけら

2011年12月29日19時51分発行